

平成26年度 指定管理者年度総合評価表

(平成26年4月～平成27年3月実施分)

作成日	平成27年5月28日
-----	------------

■指定管理者概要

施設名	八戸市児童科学館・八戸市視聴覚ライブラリー	
所在地	八戸市類家四丁目3-1	
施設概要	《設置目的》 子どもたちの科学する心を育てる児童科学館と、学校教育・生涯学習のための視聴覚教材の制作・貸出・研修を行う視聴覚センターの機能をもつ。三八視聴覚教育協議会の視聴覚ライブラリー業務も行っている。 《建物構造》 鉄筋コンクリート造 2階建 PH1階 プラネタリウム・視聴覚室・スタジオ・天体観測室	
指定管理者	名称	三八五ふれあいネット 三八五バス株式会社 代表取締役 新井山 長吉 三八五交通株式会社 代表取締役 小笠原 修
	代表者	三八五ふれあいネット
	所在地	八戸市江陽2-18-37
指定期間	平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日	
指定管理者の業務	施設使用許可及び視聴覚教材教具貸出事務 観覧料徴収事務 施設の運営に関する事務	
市所管課 (問合せ先)	八戸市教育委員会 (八戸市総合教育センター)	
	電話	0178-46-0521
	E-mail	edcenter@city.hachinohe.aomori.jp

■指定管理者による自己評価

評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 指定管理者として二期目の3年目を経過した。今年度も施設の設置目的の理解、各種法令、条例、規則等の遵守の徹底、教育関係機関と連携した「地域教育」の推進、保育園・幼稚園・学校・児童館・公民館等の教育活動の支援に努めてきた。また、かがくかん祭を実施し、体験・経験活動を通し「理科・科学の好きな子どもの育成」と「豊かな人間性の育成」を基本とした事業運営を心掛けた。さらに、職員を対象に、知識・技能の向上を目的に各種研修を行い、総合的な人間力の向上を目指した。その結果、入館者数は前年度と比べて12%増加した。 2 視聴覚ライブラリーの利便性の向上を目的に「移動ライブラリー」を実施。三八管内市町村教育委員会・小学校を中心に、当館所有の視聴覚教材等を紹介した。その結果、DVD教材等視聴覚貸し出し件数が、前年度と比べて13%増加した。 3 緊急時動員体制と情報連絡体制を整えた「緊急時行動マニュアル」、および子どもたちや職員の安全確保の方策についての「災害時対応マニュアル」を作成し、万が一の災害に対して全職員が共通理解している。非常時に機能する訓練として、年3回関係機関と連携し地震、火災、不審者対策訓練を想定し実施した。また、老若男女が来館されることから、万が一のために「普通救命講習」を開催し、AEDの正しい使い方や心肺蘇生法の模擬体験を行った。さらに、外部講師を招き、けがや火傷等への対処法を学んだ。 4 自己評価・外部評価を実施し、よりよい館運営を目指した取組を進めている。 ・以上指定管理者の6年目の総評として、各種法令・各条例等を厳守した管理運営を適切に実施した結果、職員各自が参画意識を持ち、事業企画等に創意工夫を凝らした内容になった。
----	---

今後の目標	1 職員の接客・接遇の向上を図り、総合的な人間力の向上を目指す。 2 プラネタリウムの多様化を目的に、幼・保・小中高・成人・老人向けへ「生解説番組」を実施し、利便性の向上を目指す。 3 災害等の緊急事態に素早く対応できるように、職員の危機管理能力の向上を目指す。
-------	---

■市（所管課）の総合評価

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者の努力によって、様々な事業を展開し全体の利用者数が増加した。 ・施設利用者及びプラネタリウム観覧者増加につながる積極的な広報及びマスメディアを活用したPR活動、また各教育団体との連携に努めており評価できる。 ・自主事業では、施設設置目的に合致した講座等を開いたり、職員のアイデアを採用しての事業・取組を展開したりして、利用者増加のための努力を行うなど評価できる。 ・三八五ふれあいネットが継続して指定管理者となり、第二期の3年目も順調に運営されている。
指摘事項	今後も、幼児・児童・生徒の「科学する心」の育成と市民の生涯学習の場として、事業を充実させること。

[評価：◎非常に良い、○良い、△やや悪い、×悪い、—評価不能]

■管理運営状況に係る個別評価

1 管理状況		
指標	評価	評価に対する説明
開館時間、休館日の運用	◎	業務基準書に示された内容と比べ、開館時間を延長したり休館日を減らしたりするなどして、市民サービスの向上に努めていた。 ・開館時刻を午前8時30分に早め、閉館時刻を午後5時まで延長した。 ・小中学校の長期休業中の月曜日（休館日）は開館日とし、市民サービスの向上に努めた。第2・4土曜日に夜の公開を行った（午後8時まで）。
法令の遵守	○	法令、条例や運営規則、施行規則を確認しながら業務を遂行していた。 ・職員の朝会・会議を活用して共通理解を図っていた。
適正な人員配置	◎	業務基準書に示された水準以上の管理運営するために必要な人員及び資格者を配置していた。 ・通常業務基準書で示された人員で業務を行っていた。 ・繁忙期（ゴールデンウィークや春・夏休み等）には、臨時職員・学生・ボランティアを増員して対応していた。
従事者の労働環境確保	○	労働関係法令が遵守されていた。 ・最低賃金等の労働関係法令が遵守されていた。 ・市民星空観望会や移動天文教室などでの時間超過についての配慮がなされていた。
協働のまちづくりへの協力 ※募集時に提案していた場合（選定時加点）	◎	提案内容を上回る十分な地域貢献活動が行われていた。 ・視聴覚ライブラリー上映を館内のみで実施するという提案だったが、実際には図書館や公民館でも実施した。
従事者の教育・研修	◎	従事者の教育や研修が熱心に行われていた。 ・市の指導主事や館長及び副館長から、プラネタリウムシナリオ作成のノウハウ等を学習させ、職員の技術のスキルアップに努めた。 ・日常的に主任及び業務に習熟していた職員が技術指導をしていた。 ・利用者のニーズの積極的な把握に努めながら、新しいアイデアを盛り込んだ事業（科学館キッズ工房等）を展開していた。

緊急事態への対応	◎	事故、災害等の緊急事態に対する対応（準備）が非常に良くできていた。 ・緊急事態の対応マニュアルを作成し、各従業員に周知徹底していた。 ・法令や規則に従い、適正に避難訓練を実施した。
文書の管理保存	○	文書取扱規程が整備され、作成、受領した文書は適切に管理保存されていた。
報告書等の提出	○	事業計画、月例報告、事業報告、その他報告等が適切に提出されていた。 ・各種報告書が遅滞無く行われ、内容も適切であった。
利用料金の取扱い ※承認料金制の場合	○	観覧料等、利用料金の設定は適切で、各種媒体を使い確実に周知されていた。
利用料金の減免	○	利用料金の減免を適切に行いながら、利用者の効果的な拡大に努めている。
口座管理、経理の区分	○	指定管理者専用口座で管理し、経理区分も明確にしていた。
通帳、印鑑の管理	○	通帳と印鑑の管理が適切であった。 ・通帳、印鑑それぞれ別の社員が管理していた。
管理物件に対する損害賠償、第三者への賠償	—	事例なし。
指定管理開始前における準備	—	21年度から23年度、24年度から28年度と指定管理者の指定を受けていたので、対応なし。
管理終了後における引継ぎ	—	21年度から23年度、24年度から28年度と指定管理者の指定を受けていたので、引継ぎなし。
重要事項の変更の届出	○	書類の届出が適切に行われた。 ・教育委員会承認事項に関わる届出は適切に行われた。
施設の使用許可及び条件	○	施設使用許可が施設設置条例に基づき適切に行われていた。（使用制限、条件の変更、入場拒否はなかった。）
施設、設備の保守管理	○	施設、設備の保守管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。
備品の管理	○	備品の管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。
清掃業務、警備業務、その他必要な管理業務	○	隣接する福祉公民館の清掃・警備業務担当者は当館の管理者と同一であるので、駐車場管理なども含めて適切に行われていた。

2 運営状況

指標	評価	評価に対する説明					
開館日数	◎	開館日数が前年度を上回った。 H25 312日 H26 315日					
入館者数	◎	入館者数が前年度を大きく上回った。 H25 69,717人 H26 78,638人 (前年度比 112.7%)					
プラネタリウム観覧者数	○	観覧者数が前年度を若干上回った。 H25 13,031人 H26 13,076人 (前年度比 100%)					
施設利用状況	◎		H25		H26		施設利用状況は前年度実績を大きく上回った。自主事業の成果などで、入館者数・利用者数が前年度実績を大きく上回った(入館者12%増)。
		スタジオ	5件	12人	3件	6人	
		視聴覚室	188件	3,513人	219件	4,688人	
		実習室	61件	1,348人	40件	1,209人	
		講義室	85件	2,438人	88件	2,172人	
		天体観測室	22件	580人	27件	1,310人	
合計	361件	7,891人	377件	9,385人			
プラネタリウム利用状況	○	個人観覧者数	7,490人		6,899人		利用者数が前年度実績を若干上回った。職員の生解説番組等が、団体の来客者に好評であった。 (プラネタリウム団体件数8件増)
		団体観覧者数	122件	4,337人	130件	4,960人	
			2件	58人	2件	43人	
		減免観覧者数	154件	1,146人	131件	1,174人	
合計	13,031人		13,076人				
視聴覚教材貸出し状況	◎	16ミリ映画	62本		71本		教材貸出数が前年度実績を上回った。三戸郡への無料宅配、八戸市内学校へメール便の活用、移動ライブラリーの実施等が好評であった。 (視聴覚教材貸出し13%増)
		スライド					
		ビデオ教材	260本		121本		
		LD					
		パソコンソフト					
		DVD	467本		715本		
自主事業及び委託事業の実施状況	◎	委託事業では、わくわくサイエンスや青少年のための科学の祭典への協力、移動天文教室、少年少女発明クラブ、天文クラブ等の11の事業を実施した。各教育機関との連携を密にした一方で、「八戸天文同好会」・「科学であそび隊」・「星好きんず」等、地域のボランティア団体や、八戸工業大学の学生、八戸市内の高校の学生、その他の有識者や一般市民と、連携を深めて事業を実施した。					
		5つの研修会・講座を企画、実施した。小、中学校アナウンス・カメラワーク講習会では、発声の基本、校内放送の仕方や、カメラの正しい使い方、撮り方を実施し、好評だった。また、映像利用学習会は、市教委の重点施策である「子育て」を内容にした企画で、9回実施、371人の参加者。					
	◎	科学館キッズ工房	23,995人		左記の自主事業を始め27の自主事業を行い、35,006名の参加があった。特に科学館キッズ工房は、多くのリピーターを獲得している。その他にも、「火星観測会」・「皆既月食観測会」等、天文現象にまつわる事業も展開した。また、「南部凧作り」事業では、児童よりも成人の参加者が多く、成人向けの事業の開拓にもなった。以上、当館の事業を通じて市民の科学する心に対する啓蒙が図られた。		
		火星観測会	72人				
		皆既月食観測会	596人				
		南部凧作り	27人				
		かがくかん祭	1,532人				
		八戸市環境・健康フェスタ	1,000人				
神話おばけやしき	867人						

その他の取組	◎	図書館 「お楽しみ映画会」	当館保有ビデオ教材の活用を図るため、成人・高齢者を対象にした上映会を8回実施した。上映場所は、八戸市図書館2階集会室。270人の観覧者があった。
		「星のソムリエ講座」開講	星空・宇宙の楽しみ方を知り、多くの人と楽しみを共有することを目的に「星のソムリエ講座」を開講した。この「星のソムリエ」は、星空案内人資格認定制度とされている。H26年度は、資格取得者が20名。講座を受講した中から、ボランティアサークル「星好きんず」を結成。当館のボランティアスタッフとしても力を発揮している。H27年度も、実施予定。
		他施設との連携事業	八戸市種差少年自然の家・八戸市南郷図書館と連携し、星空観望会を実施した。2つの連携事業とも好評を博し、平成27年度も実施予定。また、三沢航空科学館、水産科学館マリエントと共に、職員研修会を実施し連携を深めた。
		わくわく実験ネットワーク（教育施設との連携事業）	児童生徒の理科嫌いや理科離れを防ぎ、探求心や問題解決能力等を育むため、当館がコーディネートし、八戸工業大学と教育現場を結び、より興味関心を引き出す授業や方法を提供した。H26年度は、八戸市内小学校1校、三戸郡小学校2校と連携、事業を実施。H27年度も実施予定。
		太陽と月の秘密 （小学校との連携事業）	小学校の6学年単元「月と太陽」が、実体験を学ぶことが難しいことから難教材としている教諭が多い実情を把握。そのことから、児童科学館職員が、プラネタリウム機材や、専門的なノウハウを取り入れながら、H26年度は、八戸市内小学校1校、三戸郡小学校2校と連携し授業に協力。H27年度も実施予定。
		出前事業の充実 （幼、保、小、公民館、児童館との連携事業）	小学校、公民館、児童館等に出前事業を実施した。科学館キッズ工房の「かさぶくろロケット」等を、工作するだけではなく、疑問を持たせ解決に導くという一連の流れを行うことで、児童の科学する心を育むことができた。
		職員のスキル向上 研修の実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能の向上を目的に各種研修を年間計画で組み、実施した。 2. 全国のプラネタリウム関係者との情報交換を目的とした「全国プラネタリウム研修会」に参加した。 3. AEDの使い方、心肺蘇生法、怪我、やけど等に対する対処法を学んだ。 <p>いずれの研修も、実りある成果をあげ、現行の業務に役立っている。</p>

3 収支状況

指標	評価	評価に対する説明																																																								
指定管理業務の収支状況	○	<p>適切な収支で事業が円滑に実施され、黒字であった。</p> <p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>収支計画</th> <th>収支実績</th> <th>前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用料金</td> <td>893,000</td> <td>820,110</td> <td>835,290</td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td>35,727,000</td> <td>35,727,000</td> <td>35,151,000</td> </tr> <tr> <td>自主事業繰入金</td> <td>0</td> <td>45,024</td> <td>54,535</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>36,620,000</td> <td>36,592,134</td> <td>36,040,825</td> </tr> <tr> <td>支出②</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>24,034,000</td> <td>24,026,658</td> <td>23,684,389</td> </tr> <tr> <td>維持管理経費</td> <td>7,645,000</td> <td>7,406,887</td> <td>7,190,979</td> </tr> <tr> <td>事業費・一般事務費</td> <td>3,711,000</td> <td>3,534,787</td> <td>4,074,808</td> </tr> <tr> <td>租税</td> <td>1,230,000</td> <td>1,435,246</td> <td>1,035,771</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>36,620,000</td> <td>36,403,578</td> <td>35,985,947</td> </tr> <tr> <td>次年度修繕料繰越金③</td> <td>0</td> <td>8,232</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>収入－支出(①-②-③)</td> <td>0</td> <td>180,324</td> <td>54,878</td> </tr> </tbody> </table>	項目	収支計画	収支実績	前年度実績	収入①				利用料金	893,000	820,110	835,290	指定管理料	35,727,000	35,727,000	35,151,000	自主事業繰入金	0	45,024	54,535	計	36,620,000	36,592,134	36,040,825	支出②				人件費	24,034,000	24,026,658	23,684,389	維持管理経費	7,645,000	7,406,887	7,190,979	事業費・一般事務費	3,711,000	3,534,787	4,074,808	租税	1,230,000	1,435,246	1,035,771	計	36,620,000	36,403,578	35,985,947	次年度修繕料繰越金③	0	8,232	0	収入－支出(①-②-③)	0	180,324	54,878
項目	収支計画	収支実績	前年度実績																																																							
収入①																																																										
利用料金	893,000	820,110	835,290																																																							
指定管理料	35,727,000	35,727,000	35,151,000																																																							
自主事業繰入金	0	45,024	54,535																																																							
計	36,620,000	36,592,134	36,040,825																																																							
支出②																																																										
人件費	24,034,000	24,026,658	23,684,389																																																							
維持管理経費	7,645,000	7,406,887	7,190,979																																																							
事業費・一般事務費	3,711,000	3,534,787	4,074,808																																																							
租税	1,230,000	1,435,246	1,035,771																																																							
計	36,620,000	36,403,578	35,985,947																																																							
次年度修繕料繰越金③	0	8,232	0																																																							
収入－支出(①-②-③)	0	180,324	54,878																																																							
自主事業の収支状況	○	<p>適切な収支で事業が円滑に実施され、黒字であった。</p> <p>総収入 1,745,600円 (前年度実績 1,642,660円) 総支出 1,692,221円 (前年度実績 1,588,125円) 収支 53,379円</p>																																																								

4 運営に係る体制整備状況等の状況

指標	評価	評価に対する説明
利用者満足度の把握	○	<p>利用者満足度調査及びその結果を活かす仕組みができていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月利用者から調査を行っていた。満足度は毎月平80%に達していた。アンケート結果については施設内に貼り出していた。 科学館キッズ工房等の利用者からは、心温まる感謝の手紙も館の職員へ寄せられた。
施設概要(利用方法)の周知	○	<p>施設概要や利用方法等をマスメディアを使った広報やホームページ、施設だより等で積極的に周知していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校および幼稚園・保育園等に「館だより」で科学の祭典の開催や館内イベント情報を伝えていた。
苦情・要望等の受付体制	○	<p>苦情・要望等の受付体制を明示し、周知していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内に苦情・要望等の受付方法を明記した紙を掲示していた。 意見箱を設置していた。
苦情・要望等への対応	○	<p>苦情・要望等に対し、適切に対応していた。苦情のほとんどは、繰り返し利用する方からのさらに質の高い(大人向け)展示や上映を望む声であった。平成25年度実績 5件【苦情2件、要望3件】 平成26年度実績 6件【苦情2件、要望4件】</p>
個人情報の保護	○	<p>個人情報保護の規程を整備し、遵守に努めていた。(運用実績なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブの会員の情報なども、限度を超えないように配慮し、資料作成をしていた。
情報公開	○	<p>個人情報保護の規程を整備し、遵守に努めていた。(運用実績なし)</p>
秘密保持義務	○	<p>秘密保持義務が守られ、適切に対応されていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市の教育機関である当館の職員として、秘密保持義務を守っていた。

環境への配慮	<p>○ 環境に配慮した物品購入、省エネルギーやリサイクルの推進等の対応を適切に行っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のごみは分別し、可能なものはリサイクルに回していた。 ・少年少女発明クラブやものづくり教室などで使用できる廃品は、保管に努めていた。 ・使用していないトイレや部屋の照明等、節電を心がけていた。
--------	--

■他の事業評価実施状況

1 セルフモニタリング	
自主点検状況	<p style="text-align: center;">実施状況</p> <p>利用者アンケート結果に関して、問題点の克服に向けた取り組みを検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の要望により館内巡視と科学展示の説明の機会を増やした。 ・各事業の終了毎に参加者にアンケートを実施し、改善点を次の業務に活かすように努めた。 ・職員の幅広い人的交流の中から積極的に情報や助言を得て、各事業の企画に反映させた。

2 定期モニタリング	
定期報告状況	<p style="text-align: center;">実施状況</p> <p>月例報告書などを元に、運営・収支状況などのモニタリングを行った。遅滞なく提出され、内容も適切であった。</p>

3 随時モニタリング				
実地調査状況	実施回数	実施日	実施者	実施内容
	5回	4月11日	所長・GL・担当・主査	管理者の確認、および館内の様子、また今年度の館の運営に関わる見通しや今後の予定についての把握を中心に視察した。
		6月19日	GL・担当	館の運営状況の把握・確認とともに、来館した市民の要望・苦情に対し適切な改善策を講じていたかについて聞き取りを行った。
		9月9日	GL・担当	館の運営状況の把握・確認とともに、施設・設備の修繕、事業等次年度の予算請求等に関わる要望の確認を中心に視察した。
		11月19日	GL・担当	自主事業および委託事業、その他の取り組みについて、館の運営状況や利用状況の把握・確認を中心に視察した。
		2月19日	GL・担当	個人情報保護や情報公開等について意見交換を行うとともに、今年度の事業の振り返りと春休みの企画を含めた次年度の計画・企画について視察した。
実施結果				<ul style="list-style-type: none"> ・予定していた事業や内容について適正な管理運営を行っていた。 ・市民からの要望・苦情に対し真摯に受け止め、その改善に努めていた。 ・適切に修繕を行い、業務を円滑に行うことができていた。 ・キッズ工房等では入館者を増やす量の改善とともに、体験活動の充実を図るなど質の改善にも取り組んでいた。 ・市民団体や工業大学、高等専門学校など他の機関との連携を生かしながら、自主事業の成熟をはかるとともに、人的交流が盛んになされていた。

※GL：グループリーダー